

事前のお知らせ



さまざまな小中一貫教育の取組を発表します ～ねりま小中一貫教育フォーラム開催～

と き 平成 27 年 1 月 23 日 (金) 午後 1 時 45 分 ~ 4 時

と ころ 練馬文化センター 小ホール (練馬 1-17-37)

練馬区教育委員会では、小学校と中学校の教員が協力し、義務教育 9 年間を見通して子どもたちを育てる「小中一貫教育」の推進に取り組んでいます。

23 日 (金) それぞれの学校の状況に応じた取組を発表し、今後の小中一貫教育の進め方を考える「ねりま小中一貫教育フォーラム」を開催します。

フォーラムの第一部では、開校して 4 年目となる小中一貫教育校大泉桜学園 (大泉学園町 9 丁目) や、小中一貫教育を進めている 8 組 23 校の小・中学校が、これまでの取組における成果と課題を発表します。第二部では、国における小中一貫教育の制度化も見据え、さまざまな状況に応じた小中一貫教育の進め方を考えるシンポジウムを行います。



小中合同研究授業の様子



乗り入れ授業の様子

【練馬区における小中一貫教育の取組状況】

練馬区では、平成 23 年度に施設一体型小中一貫教育校「大泉桜学園」(大泉学園町 9-2-1)を開校すると同時に、施設が離れた小・中学校においても順次、研究グループの指定を広げることで小中一貫教育の取組を進めてきました。平成 26 年度現在、34 の中学校区のうち 25 中学校区で小中一貫教育に取り組んでおり、平成 27 年度には練馬区全域に拡大する予定です。

練馬区には、小中一貫教育校 1 校、小学校 64 校、中学校 33 校があり、小・中学校間の距離、小学校と中学校の通学区域の重なり具合、学校規模などさまざまに異なります。練馬区では、小中一貫教育を進めるにあたり、練馬区統一の小中一貫教育カリキュラムを作成して一斉に実施するのではなく、地域の子どもの実態にあわせて、小・中学校のグループごとにカリキュラムを研究しています。小・中学生の交流や小・中学校教員の合同研究についても、さまざまな状況に応じた取組を模索してきました。

小学生と中学生が関わることで、小学生の中学校生活への期待が膨らんだり、中学生が自己有用感を高めたりして中 1 ギャップの解消につながる成果が見られているほか、小・中学校が協力して家庭学習の習慣化を働きかけたり、子どもたちの学習上のつまづきを減らすような授業を工夫したりするなど、学力向上に向けた取組も進めています。

また平成 25 年度から、文部科学省の委託を受けて、小中一貫教育の評価検証手法や、小中一貫教育の中核となる人材の育成などについて研究を進めています。

【シンポジウム「さまざまな状況に応じた小中一貫教育の進め方を考える」】(午後 3 時から 4 時まで)

練馬区が文部科学省の委託研究を通して、小中一貫教育指導について助言をいただいている文教大学教育学部の葉養正明教授、大妻女子大学教職員総合支援センター所長の酒井朗教授など 4 名の学識経験者をシンポジストとしてお迎えし、さまざまな状況に応じた小中一貫教育の進め方についてご議論いただきます。

【申込・問い合わせ】

入場無料。事前申込制。定員 200 名。

問い合わせ先：教育振興部 教育企画課 新しい学校づくり担当係

atgakko@city.nerima.tokyo.jp FAX 3993-1196 電話 5984-1034

【問い合わせ】教育振興部教育企画課新しい学校づくり担当係 電話 03-5984-1034